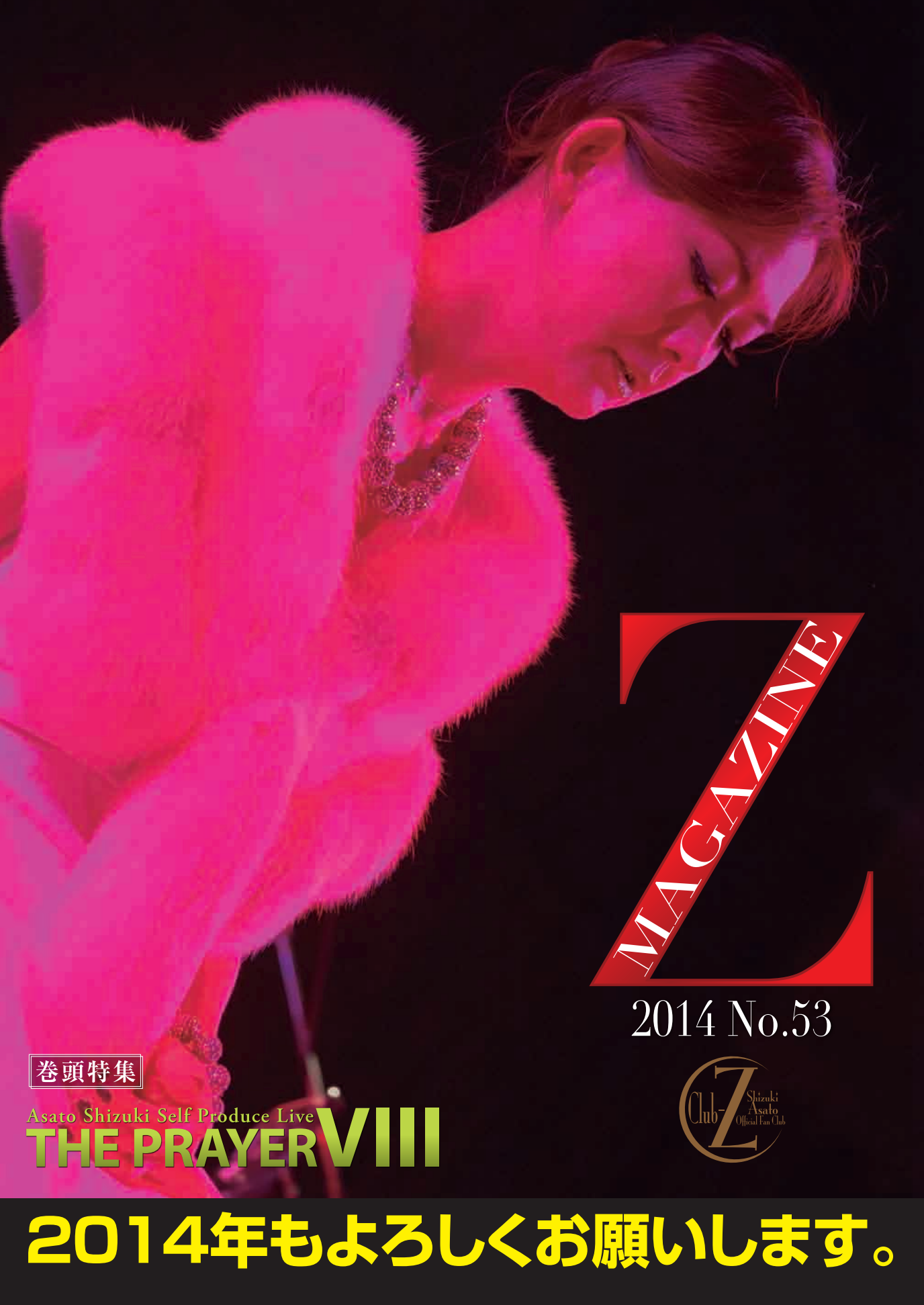




Z MAGAZINE

2014 No.53

巻頭特集

Asato Shizuki Self Produce Live
THE PRAYERVIII



2014年もよろしくお願いします。

STB 139
スイートバイジル

巻頭特集

Asato Shizuki Self Produce Live THE PRAYER VIII

ピアノ榊原大さん、キーボード光田健一さん、ベース一本茂樹さん、パーカッション大石真理恵さん、
実力派のメンバーを迎えて、

12月2日大阪公演、3日名古屋公演、11日東京公演、16日東京追加公演の計4日間
行われました、姿月あさとセルフプロデュースライブ「THE PRAYER Ⅷ」
9月の初打ち合わせから、ライブ本番までの模様をお伝えます。



左から、榊原大さん・一本茂樹さん・姿月あさと・大石真理恵さん・光田健一さん

巻頭特集

Asato Shizuki Self Produce Live THE PRAYER VIII

9月某日 初打ち合わせ

本番を三ヶ月後に控えたこの日、都内某所にて、ピアノを担当する榊原大さんとの初打ち合わせ。

事前に2人が選んで来た曲を聴きながら、今回の選曲のテーマの一つでもあるアニメソングの話で盛り上がっていました。

2日後キー合わせ

打ち合わせ時の熱も冷めやらぬうちに、榊原さんとうそく先日絞った候補曲のキー合わせが行われました。どの音程にするか迷った曲もあったり、スタジオの使用時間が足りなくなる程、熱中していました。



榊原さんとのキー合わせ

11月某日 第1回リハーサル

全員が揃った初リハーサル。姿月のアイデアで「いっぽんでもニンジン」の「いち」に「さん」……というかけ声にエフェクトをかけました。

数日後 第2回リハーサル

2回目にしてこの日が本番前最後のメンバー全員でのリハーサルです。曲の方向性も固まり、あとは本番を迎えるのみです。



2回のリハーサルであのクオリティ。プロフェッショナルな方々のなせる技です。

12月11日(水曜日) 東京公演

2日の大阪公演と3日の名古屋公演を無事に終え、この日は六本木SBSスイートベijingルにて東京公演です。

姿月の代表曲

この流れのあと、短いMCを挟み歌ったのは「夜明け」。冒頭の静かに語りかけるように歌う姿と、後半の圧倒的な歌声に会場の空気が変わるような素晴らしいパフォーマンスを披露。大きな拍手に包まれながらステージを後にしました。

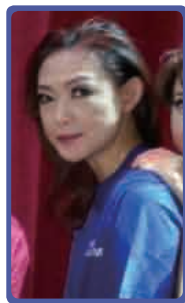
アンコール

ノースリーブのシックな黒いロングドレス姿に変わった姿月とバンドメンバーが再びステージに上がり、3曲を披露。「THE PRAYER VIII」を締めくくめる最後の曲は、ジェン・レノンの「Happy Xmas」。後半の「フーラ……」という部分ではお客さんも一緒に歌い、会場が一体となったところでライブは終了となりました。

最後の姿月の名残惜しそうな顔が印象的でしたが、会場のお客さんも同じ気持ちだったのではないのでしょうか？



実際に姿月が着たTシャツを
2014年7月のClub-Z Tour 2014 in 軽井沢にて
プレゼント予定!!



表面

トークショーで着用して
いたTシャツはこちら!!

背面

DREAM, A DREAM レポート

2013年10月19日(土)・20日(日)／東京・東急シアターオーブ

2013年10月19日(土)、20日(日)には、東京・東急シアターオーブにて、11月14日(木)、16日(土)には、大阪・梅田芸術劇場にて行われた宝塚歌劇100周年を記念したソング&ダンスショー『DREAM, A DREAM』にスペシャルゲストとして出演しました。

の世界へと変えたかと思うと、次の曲「ディガ・ディガドウ」の前半部分をちよつとお茶目な雰囲気披露しました。スペシャルゲストは短い出演時間ではありましたが、限られた時間の中で表現される姿月のステージは、目を見張るものがあつたのではないでしょう。10月20日(日)・11月14日(木)の公演終了後には、元花組スターによる『スパルタカス』トークショーにも出演致しました。



富士の国 やまなし国文祭

2013年10月26日(土)

国民文化祭とは

地域に文化を発信する目的で始まり、今年は山梨を舞台に1年を通じて開催されました。姿月の出演は、秋のステージ総合フェスティバル。今年は富士山が世界遺産に登録され、富士山をテーマとした舞台となりました。

第部

オーケストラ演奏。翌日にご一緒したイルミナートフィルハーモニーオーケストラのみなさんと、世界を舞台に活躍されている指揮者の西本智実さんが担当され、この日初披露となる交響曲「富士」を披露されました。その後、山梨県内の合唱団で構成された混声四部合唱団の山梨市民87名が富士の四季を唄っていました。



楽屋で
バチリ!

第二部「風の麗美遊」

作・演出を三本章雄先生が担当され、富士の誕生から始まる壮大な物語を世界中の音楽やダンスで描いたステージとなりました。

第章「火」

姿月は、サウンドオブミュージックの名曲「すべての山に登れ」を披露。山梨県内の合唱団で構成された山梨混声合唱団のみなさんとの共演です。赤系のゴージャスなドレスの胸元から裾に向かってゴールドのレースがあしらわれ、腿までのマードレスでありながら、裾に向かって膨らむドレス。とても気品が溢れていて、きつと、みなさん見とれたことでしょう。もちろん、衣装だけではありません。会場へ語りかけるように、やさしく伸びやかに歌う姿月。この曲の終盤では、コーラストリオの3名さらには山梨混声合唱団のみなさんが加わり、とても壮大な大合唱となりました。

第章「花」

次に姿月が出演したのは、第五章「花」。富士の麓で花開いた新しい世界を表現しています。淡いパープルの燕尾服、胸元にはゴージャスな白いふわふわの羽毛が首元を覆って

哀愁漂う「ミマンケライ」、そして「モルダウ」へ

そのまま、姿月、風花さん、舞風さんの3人がステージ上に残り映画イル・ポストイノ主題歌「ミマンケライ」へ。姿月の低くも迫力のある歌声をお二人のオブリガードで彩り、非常に聴きごたえ・見ごたえのあるステージとなりました。

さらに、ステージに一人残った姿月。続いては、迫力満点の「モルダウ」です。この曲の姿月の歌声は、特に激しさの中にも優しさを感じられ、観客を圧倒したことは間違いないのではないのでしょうか。

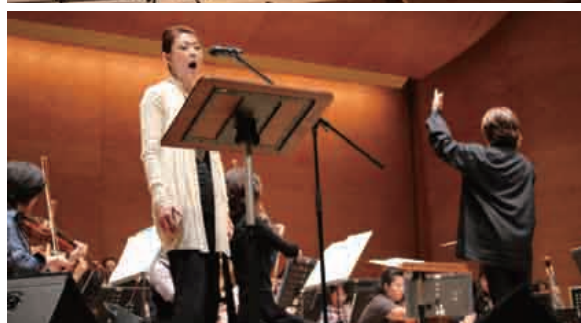
第章「風」

いよいよ最後の曲となりました。アシメントリーの黒いロングドレスを纏い、髪の毛をハーフアップし、ゴールドのティアラをつけた姿月が、「黒いワシ」を披露。白い紙吹雪が舞う中、姿月の歌に合わせ、花風舞さん、舞風りらさん、珠州春希さん、真波そらさんの4人が対照的な白い衣装でダンスを披露。さらに、曲のクライマックス

西本智実&イルミナートフィル レポート

クラシックとミュージカルの華麗な出会い
～The splendid Sunday

2013年10月27日(日)／山梨・コラニー文化ホール



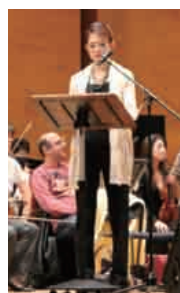
休む間もなくリハーサル

山梨国文祭が終了した後、西本智実さん、イルミナートフィルハーモニーオーケストラの皆さんと、休む間もなく、リハーサルでした。

先程までの華やかな雰囲気とは、がらりと変わって、まずはオーケストラのみなさんのリハーサル風景を、客席から見守る姿月。そつと楽譜に目を落とし、一音ずつ、目で追いながら、自分の順番がくるまで待っていました。この日は、タイミン

ソリスト姿月あさと

翌日の本番では、前半にミュージカルからの楽曲を中心に5曲を担当しました。どれも馴染みの楽曲を西本智実さんがまどめ上げ、オーケストラの迫力のある演奏に負けないくらい優しくも力強い姿月の歌声が印象的でした。芸術の秋、とても貴重な2日間となりました。



デザイン画コレクション

山梨国文祭では様々なステージ衣装が姿月のために用意されました。普段は見ることの出来ない貴重なデザイン画の数々をご覧ください。



第一章「火」

第五章「花」

第六章「風」



マスコットのカルチャくん

クスでは、山梨県内の文化団体が加わり、本当に素敵な時間となりました。曲が終わっても、会場内の拍手は鳴りやまず、そのままフィナーレへ。山梨県のみなさんと一緒に作り上げたステージ、本当に貴重なひとときとなりました。

- List
- レミゼラブルより 「I Dreamed a Dream」
 - 「Empty Chairs at Empty Tables」
 - オペラ座の怪人より 「序曲」「The Music of the Night」
 - ミス・サイゴンより 「I'd Give My Life for you」
 - 「アヴェマリア」(カッチーニ)